

死ぬほどの位もなくして早かな

藤田湘子

俳句は、すべてを捨て去り一句として完結する。

それなら他の一切は無視して鑑賞すれば良きそうなのだが、つい、あれこれと妄想が湧き出てしまう。

制作年月日を見れば、昭和五十八年の八月八日。湘子先生には八十日しか入隊経験が無かったとは言え、軍隊で一度ならず死を覚悟した者にとっては、敗戦の八月の感慨はさぞ深かったことだろう。

そして、この年の四月二十九日（昭和天皇誕生日）、四つ年長の飯田龍太が春の紫綬褒章を受賞している。

同じ俳人として祝賀の気持ちとは裏腹に、如何ばかりかの無念があつたのではとつい想像してしまふ。

死ぬ朝は野にあかがねの鐘鳴らむ 湘子

1983年（55.8.08.08作）第六句集『一個』 鑑賞・轍郁摩